

社会規範と市場規範における行動の変化 ふるさと納税を例に

1220460 合田龍司
指導教員名 林良平

研究背景

社会規範から市場規範に変化した際の行動の変化については、Gneezy and Rustichini (2000)の実証的研究から得られている。しかし、市場規範から社会規範に変化した際の人間の行動の変化については十分な検討がなされていない。そこで、ふるさと納税と規範の関係性を用いることで、規範の変化について検討できるのではないかと考え、本研究に取り組んだ。

研究目的

社会規範から市場規範に変化した際の寄付行動の変化や、市場規範から社会規範に変化した際の寄付行動の変化について実証的に検討していくことにある。

調査・分析方法

総務省のふるさと納税ポータルサイトの各市区町村のふるさと納税のデータから、ワンストップ特例制度が開始された2016年度から2020年度までのデータを抽出した。そして、社会規範から市場規範に変化する際や、市場規範から社会規範に変化する際の寄付件数の差と寄付金額の差の平均を求めることで、人間の寄付行動の変化について分析した。

分析結果

人間の寄付行動は、社会規範から市場規範に変化した際に増加し、市場規範から社会規範に変化した際に減少した。また、1度変化した規範を元の規範に戻すことは難しいことが、本研究でも再現された。

考察・結論

市区町村の各自治体は、ふるさと納税の寄付件数や寄付金額を増やすためには、返礼品を設定することが重要となる。この研究結果は、ふるさと納税以外にも、規範との関係性が高ければ、規範を変化する前にある程度の予測が可能になるのではないだろうか。